

平成26年度 大学院修士課程・博士前期課程の教育の成果に関する アンケート調査結果の分析

1. 調査の概要

この調査は平成26年度の修士課程・博士前期課程修了者を対象として、大学院教育の成果について質問したものである。方法は質問紙調査で、平成27年3月11日に修了対象者40名に質問紙を配布、3月23日までに回収した。回収数は9名、回収率は22.5%であった。回収率が平成25年度の59.5%から大幅に低下しており、回収の絶対数が非常に少ないために、結果については参考程度にしかみることができない。

2. 調査結果の概要

調査の詳細な集計結果については別紙に示すが、全体的な傾向や目立った特徴について、前回平成25年度の結果とも比較しながら概要を述べる。

1) 修了後の進路について

修了後の進路は会社員（非研究職）が66.7%と最も多く、ついで研究所・団体等職員（22.2%）、博士課程・研究生・PD等の研究従事者（11.1%）となっている。進路先については66.7%が希望した職種としている。平成25年度の結果と比較すると、希望した職種との回答が72.8%から減少している。

2) 大学院の教育・研究について

自分が所属した講座で学んだことについては88.9%がとても満足、11.1%がどちらかといえば満足と答えており、また指導教員からの指導内容・方法には100%が満足と答えていることから、全体としての満足度は高いと言える。

3) 大学院の様々な学習や活動とその成果について

大学院の様々な学習や活動を「講義科目」「演習」「実験・実習」「学会発表」「修士論文作成または課題研究」「大学院教育全般」に分け、それぞれへの取組みの熱心度、満足度を尋ねたところ、いずれも実験・実習、修士論文作成または課題研究がもっとも高く評価されている。学生は実験・実習と修士論文作成や課題研究にもっとも熱心に取組み、かつそれに満足したことがわかる。いっぽう講義科目や演習にはやや熱意も満足度も低くなっている。

勉強以外の活動ではアルバイトに熱心に取り組んだ学生が多かった。大学院で得たものとしては専門的な知識・技術、幅広い知識・教養、論理的思考能力、表現力・プレゼンテーション能力が多かった。

大学院で学んだ専門科目と修了後の進路との関連については22.2%が「大いに関連がある」と答えているのに対し11.1%が「あまり関連がない」、「まったく関連がない」と答えており、大学院の専門教育と進路がうまく連結していない修了者がいることが推測される。

そうした進路や職業に大学院での様々な学習や活動がどの程度役立つと思うかを尋ねたところ、全般的に「やや役立つ」という答えが多かった。大学院でもっと熱心に取組みればよかったと思う授業については修士論文作成・課題研究と学会発表が多

かった。

4) 帯広畜産大学の大学院教育全体について

大学院の教育目標の達成については 33.3%が「おおむね達成していると思う」と答えているが、「あまり達成していないと思う」という答えも同じく 33.3%あった。学部と同じ質問と比較すると、「おおむね達成している」が学部 71.2%、大学院 33.3%で、大学院修了者の方が教育目標の達成について厳しい見方をしていることがわかる。ただし、「その他・わからない」が学部の 8.6%に対して 22.2%と非常に多くなっていることから、大学院学生への教育目標の周知が不十分である可能性も示唆される。

大学院の教育システムについては「改善すべき部分が少しある」が 33.3%、「改善すべき部分の方が多い」が 22.2%で、合計すると「今のままでよいと思う」より多くなっている。自由記述回答を見ると、修士論文作成や実習よりも講義科目への不満の方が多い。平成 25 年度に続いて、単位の実質化で授業科目の負担が増加したが学生がその価値を感じていないことが推測される。

帯広畜産大学の大学院に進学し、そこで学んだことへの満足度では、「とても満足している」が 77.8%、「どちらかといえば満足している」が 11.1%と、大半の学生が満足していることがわかる。

以上